

溢水量評価の一覧表
(主冷却機建物地下1階及び地下2階)

溢水の影響評価において、「機器の破損等により生じる溢水」及び「原子炉施設内に設置された機器の破損による漏水（耐震重要度分類B、Cクラス機器の破損）」として、想定する溢水源には、主冷却機建物の補機冷却設備、上水・工水設備、脱塩水供給設備等が該当する。主冷却機建物地下1階及び地下2階の溢水量評価の一覧を第1表に示す。

第1表 溢水量評価（主冷却機建物地下1階及び地下2階）

建物	部屋番号	溢水経路						区画外溢水源	
		流出流量 Q_0 (m^3/min)	溢水源の評価に使用するパラメータ				溢水量 Q_1 (m^3) *1	溢水量 Q_1 (m^3) *1	
			隔離に要する時間T						
			a (min)	b (min)	c (min)	d (min)			
主冷却 建物	地下1階	S-201 止水板外	0.07	240*	2	5	10	18.6	0
	地下2階	S-101	0.11	50*	2	5	10	7.8	0
		S-102	0.26	57*	2	5	10	20.8	0
		S-105	0.11	45*	2	5	10	7.3	7.3
		S-106	0.11	45*	2	5	10	7.3	7.3
		S-111	—	—	—	—	—	—	0
		S-112	—	—	—	—	—	—	0
		S-125	0.25	20*	2	5	10	22.1	0
		S-127 防油堤内	—	—	—	—	—	6.0*2	0
		S-128 防油堤内	—	—	—	—	—	6.0*2	0
	S-130	0.25	19*	2	5	10	22.0	0	

- a. 検知器の作動により運転員が溢水に気付くまでの時間
- b. 検知器の作動により運転員が溢水に気付いてから漏えい箇所の確認までの時間
- c. 運転員が漏えい箇所を確認してから溢水源のポンプ等の停止までの時間
- d. 運転員が溢水源のポンプ等を停止してから溢水源の弁を閉止するまでの時間

*：溢水検知器を新設。なお、検知器が作動するまでの時間の短縮化を検討するが、ここでの評価を上回ることがないものとする。

*1：流出流量に配管内保有水量を合わせて算出

*2：タンク貯蔵量